

令和7年度 第2回精華町入札監視委員会 議事概要

日	時	令和7年11月19日（水） 10時00分～12時00分	
場	所	精華町役場 庁舎5階 501・502会議室	
出席委員		委員長 安保 嘉博（弁護士） 委員 川勝 健志（京都府立大学教授） 委員 横田 慎一（公認会計士）	
議 事 概 要		1. 開会 2. 議事 1）入札及び契約手続の運用状況等について 2）抽出案件に関する入札経緯等について 3）次回抽出委員の選出について 3. その他 事後検証範囲の拡大について 4. 閉会	
審 議 対 象 期 間		令和7年4月1日 ～ 令和7年9月30日	
審 議 対 象 件 数		[工事] 35件	
内 訳	一般競争入札	29件	
	指名競争入札	0件	
	随 意 契 約	6件	
抽 出 案 件		13件	
委員からの意見・質問 とそれに対する回答等		意見・質問	回答等
		別紙のとおり	別紙のとおり
委員会意見の内容		○抽出案件に関する入札経緯等について 具申すべき特段の意見はない。なお、各委員から出された質問・意見について今後の入札契約事務において参考にされたい。	

2 議事

1) 入札及び契約手続の運用状況等について

意見・質問	回答等
○本工事は予定価格は事前公表か。	○本案件は、予定価格を事前公表で実施して

<p>○事前公表であれば予定価格ギリギリで入札するというの可能性があるとしてあり得る話だと思うが、こういった問題意識を持っているか。</p> <p>○調査の結果2者のうちどちらかが落札をされたのか。</p> <p>○事前公表の場合は、最低制限価格に近い金額で入札する傾向が近年あるが、今回の案件では予定価格に近い入札になっている。ヒアリング結果では業者側から採算が合わないという回答があったと聞いたが、一度流れた案件にもかかわらず二度目に入札を行った理由は確認しているか。</p> <p>○1回目の入札の際に参加した業者の情報は公開しているのか。</p> <p>○2回目に参加し同額の入札を行った2者というのは、過去の傾向から1万円単位で入札を行っているのか分析はしたか。</p> <p>○今後も同じようなケースがあれば、過去の結果を分析をすれば偶然性などがわかるので今後の参考にして頂きたい。</p>	<p>いる。</p> <p>○精華町では、重大事件以降、高落札または一者高落札の案件について、入札調査監視委員会の要綱に基づき調査を行っているため、本案件も調査を行った。</p> <p>○調査の結果問題がないと判断し、くじ引きを行い落札者を決定した。</p> <p>○本案件については一度目は所在地要件を町内業者に絞っており、二度目で京都市以南にまで広げた。そのため入札のあった2業者は、本案件に関しては一度目の入札である。</p> <p>○参加業者は公開していない。</p> <p>○2者共に今年度から初めて本町の入札に参加しているため、分析は行っていない。</p>
---	--

2) 抽出案件に関する入札経緯等について

①令和7年度 東畑集会所屋根外壁等改修工事

…一般競争入札

意見・質問	回答等
<p>○参加業者中1者が最低制限価格と同じ額で入札しており、近年、最低制限価格で参加業者が並ぶケースはよく目にするが、1者だけというのが気になり抽出した。本案件は予定価格事後公表の案件なのか。</p>	<p>○本案件は、予定価格事前公表である。</p>

<p>○他の業者も最低制限価格で並んでいない理由は。</p> <p>○基本的には中央公契連モデルを使って積算すれば、精緻に最低制限価格に近い金額をはじけるはずだが、さらに過去の案件などを分析した結果、本案件の落札者はピッタリと金額を当てたということか。</p> <p>○見積書は結論だけ書いてあり、内訳がわからない。そのチェックが必要だと感じている。</p> <p>○今回は1者が最低制限価格と同額であるが、他者は算出した結果、最低制限価格と同額にはならなかった。他者が最低制限価格と思って算出した結果が町と違うのは当然だと考える。</p>	<p>○中央公契連モデルの最低制限価格の上限が予定価格の92%になる案件であれば、落札者が並ぶケースはよくあるが、今回は91.16%が最低制限価格になっており、落札業者が過去の類似案件の開札結果をもとに分析を行い、入札金額を決められたのではないかと考える。</p> <p>○土木工事と建築工事でも性質が異なり、土木工事は単価など参考資料として公表している資料が多いが建築工事は公表できない資料が多いため、最低制限価格での並びやすさでいうと、土木工事は最低制限価格で並びやすく、建築工事は最低制限価格ピッタリでは積算しにくい。</p> <p>○入札時において、科目別内訳までは確認をしている。</p> <p>○業者によっては利益を考えて高めに設定するケースも考えられるので、金額が合わないのはそういったことも考えられる。</p>
--	---

②令和7年度 むくのきセンター体育館天井耐震改修等工事

…一般競争入札

意見・質問	回答等
<p>○本案件は、落札金額が1億円を超えている大きな工事だという部分と、案件①とは対照的に9者が最低制限価格と同額であったため抽出をした。</p> <p>○本案件も工事費内訳書を確認したと思うが、どういった確認をしたか。他者の内訳書と比較検討をしたか。</p>	<p>○入札時において、添付の工事費内訳書を確認し項目の一致を確認した。抽選対象の業者の内訳書の項目までは確認を行った、項目内の金額の比較は行っていない。</p>

○案件①に比べて、本案件のほうが最低制限価格を出しやすい等の理由があったのか。	○最低制限価格を計算した結果、合計額が92%を超えた場合は92%を採用するためだと推察する。他の案件でも92%で並んでいるのは、最低制限価格を計算した結果、92%を採用していると考えられる。
○最低制限価格が予定価格の92%を超えてくるような案件というのはどういった案件か。傾向はあるのか。	○高い割合を占める直接工事費が高い工事は、そういった傾向になりやすいと推測する。
○中央公契連の計算式にさらに最後にランダムで数字を足すやり方は採用していないのか。	○元々は変動型を採用していたが、重大事件以降は中央公契連の数字そのまま採用している。変動型はきっちり積算していても落札できない案件が出てくるので、そこに不公平感が生まれ、職員に働きかけ等が行われる可能性が否定できないので現行の形になった。

③令和7年度 堀池川雨水路整備工事

…一般競争入札

意見・質問	回答等
○6者が同額で並んだ理由の分析は。	○土木工事は京都府の歩掛を使っている。その基準はすべて公開されており、業者はその歩掛が入った積算システムをそれぞれ購入されているので、金額が並びやすいと聞いている。 材料費も、建築工事は見積もりが多いが、土木工事はすべて公表されているため建築工事と比べると積算が容易だと考える。
○町からすれば工事の質を担保し、かつ最低制限価格で工事をしてくれるのであればそれに越したことはない。一方で、業者は自分たちの力量に関係なく、抽選で落札業者が決まってしまうという現状に不満はないのか。	○特に業者からそういった話は聞いていない、精華町が何か特別なやり方でやっているわけではなく、京都府でも抽選は多いと聞いている。
○京都府では、抽選ばかりになる状態に対して業者の不満は強かったと聞いている。	○毎年、精華町の建設業協会に対してはヒアリングを行っており、くじ引きに対する不満は特に聞いてはいない。そういうものと認識をされていると思う。一方で事後公表に関し

<p>○建築工事の事後公表について、業者の認識は適切ではないと考える。同額抽選について、かつて、業者の中で出ていた不満というのは、年月を経てなくなっているのかもしれないが、それで適切といえるのかという問いは残ると考える。</p>	<p>て、建築工事はただでさえ公表資料が少なく金額が出しにくいのに、上限値である予定価格まで事後公表にされるとさらに積算が厳しくなるのでやめてほしいとの意見が出ている。我々としては業者の意見を受け入れているわけではないが、業者の思いと本委員会で出ている意見に違いが出ていることは報告しておく。</p>
--	--

④令和7年度 精華台地区道路高木剪定等業務委託 …一般競争入札

※資料5 入札契約方式別発注案件一覧表の青色で抽出された7案件を一括審

意見・質問	回答等
<p>○青色でマークした7案件を抽出した意図というのは、剪定や除草の業務委託はすべて10者近くの業者が最低制限価格で並んでいる点にある。この点に関してどのような分析をしているのか。</p> <p>○先ほどと質問が重複するが、抽選になることに関して、業者から不満の声はないか。</p> <p>○毎年、最低制限価格で全者が並ぶような業務委託は随意契約では駄目なのか。</p> <p>○即座に何か対策する必要があるとは思わないが、一度、随意契約も検討すべきではないか。行政も生産性を上げていかないといけないのもっと時間と労力をかけないとい</p>	<p>○土木工事の歩掛を公表しており、なおかつ、毎年やっている業務委託なので積算が容易であるため、全者が最低制限価格で並んだと考えている。</p> <p>○現場レベルでいうと、落札できなかった業者からは残念という声はあるが、抽選に関する不満は聞いていない。</p> <p>○基本的には金額要件がまずあるので、随意契約をする大きな理由がなければ、契約の例外行為である随意契約ではなく、入札をするのが基本だと考える。</p>

けない案件にかけられなくなるのではと考える。	
------------------------	--

⑤令和7年度 舗装修繕工事

…一般競争入札

意見・質問	回答等
○本案件は14者が最低制限価格と並んでおり、今回の抽出案件で並んだ業者が一番多かったため抽出した。	○剪定や除草と同じく、本案件も舗装と区画線工という決して特殊な工事ではないので、金額が並んだと考えている。

⑥令和7年度 精華台小学校第1期便所改修工事

…一般競争入札

⑦令和7年度 精華西中学校第1期便所改修工事

…一般競争入札

※同時に審議

意見・質問	回答等
○1億円を超える比較的大きな工事で、最低制限価格に7者と6者と並んでいるため抽出した。	○町内8校ある小中学校のうち最後の便所改修工事になっており、1校に2年かかるため、すでに10回以上工事を行っている。過去の工事の設計書の開示請求も何度かあり、業者側も精査したうえで精度の高い金額を入札されていると思う。
○この2案件の2校が最後の便所工事だと聞いたが、過去をさかのぼって特定の業者に工事が偏らないようにしているのか。	○過去の工事に関しては、本委員会で抽出されたこともあったと思う。条件は少し変わることもあるが、参加業者が2から3者しかないというケースが多かった。ほかの建築一式工事でもそうだが、今年度に入り参加業者数が増えている傾向があり、毎回同じ業者が参加しているわけではない。 年度が替わり、手持ち工事制限が外れれば参加可能になるので、2年から3年単位での業者重複をなくすということは、実施していない。
○年度をまたいでも、業者が分散するようにしても良いのではないかと考える。	○町の方針として、まずは町内業者に受注機会を与える前提としており、町内業者のみで競争性を発揮できなければ、所在地エリアを拡大させ競争性を担保していくこととなっている。手持ち工事制限というのは、受注している工事を1つまでとし、より多くの業者

<p>○この2案件は予定価格の92%が最低制限価格になっており、複数者による抽選になったことは理解できる。積算するうえで各業者がどれほどの情報を有しているのかという点で、先ほど開示請求の話があったが、どの程度の業者が開示請求をしたのか把握しているか。</p>	<p>に受注してもらうという制度になっている。実際に同じ業者が手持ち工事制限が終わり次第、新しい便所工事を落札するケースも発生している。</p> <p>○正確には把握していないが、今年度は10者ほどが開示請求してきている。あくまで感覚にはなるが、入札参加者の半数以上は開示請求している。</p>
---	---